

1. 出発前の準備について

ビザの種類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 種類(学生ビザ)	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input checked="" type="checkbox"/> 現地 場所(ドイツ外国人管理局)
必要書類、手続き 手続きに要した期間	必要書類：パスポート、シュパルコントビザ手数料、Zulassungsbestaetigung、Meldebestaetigung、保険加入証明書 たいていの書類はドイツの大学のオリエンテーションで入手しました。		
ビザ申請以外で 必要な事前手続き	ドイツ留学するにはパスポート以外特に必要な申請手続きはありません。		
留学に向けて 取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他 (語)		
勉強方法	英語、ドイツ語の授業を積極的に受け課題や復習に勤しんだ。		
留学先の手続き (必要書類、大変だったこと、どのように取り組んだか等)	ビザの情報が事前に十分に手に入らず、担当者が厳しい方だったため苦労した。特に経済力証明書類は要注意。		
事前の必要経費 (留学前に必要な 支払い費用) ※概算費用	<input type="checkbox"/> 授業料 円 <input type="checkbox"/> 寮費 円 <input type="checkbox"/> 語学研修費 円 <input type="checkbox"/> 教材費 円 <input type="checkbox"/> ビザ申請 円 渡航費 (<input checked="" type="checkbox"/> 片道 <input type="checkbox"/> 往復) 7万円程度 海外旅行保険料 円 <input type="checkbox"/> その他 () 円		

2. 渡航～到着時の生活について

利用航空会社	タイ国際空港	手配	スカイキャナー ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡発、タイ・スワンナプーム航空乗り換え、フランクフルト着	到着時刻	午前6時 【※移動時間（約 20 時間）】
大学（寮）への 移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関（ <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	中央駅から Flixbus という格安バス会社を利用してザールラントまで向かった。9 ユーロ程度で事前予約可。		
住居のタイプ	<input type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート そ の 他 （ WG ）	住居 手配	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他（ ）
部屋の種類	<input type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 その他（3 人のシェアーム）	ルーム メイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの学生 その他（ドイツ人社会人）
住居の申込手順	事前に大学からメールで書類が送られてくるので、記入し申請。デポジット、家賃等は現地でも支払い可能。		
住居でのトラブル および解決方法	何か壊れた際はハウスマイスターか物件管理会社に相談。ベッド等の家具も無償で交換してもらえる。		
大学への交通手段 （※費用がかかれば費用も）	バス 2 本の乗り換えで通学。セメスターチケット 126 ユーロ程度に州内すべての交通料金が含まれているので、別途料金は不要。		
生活費および内訳 （概算を円換算）	生活費計 10 万円／月 （生活費内訳） 住居費： 3 万円／光熱費： 円／通学費： 0 円 食費： 3 万円／通信費： 0 円／書籍代： 1 万円 その他：（ 保険等 ） 3 万円 ※学費・寮費以外に留学先大学へ納入するもの： 0 円 （徴収された費用の名目： ）		
その他生活に必要な 手続き、アドバイス （口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など）	銀行口座は Sparkasse が州によってシステムが変わってくるので Deutsche Bank のほうが良いと思う。保険はドイツで加入したほうが良い。後保険料金を払っていれば、病院での診察や簡素な手術を無料で受けられるので迷わず利用したほうがよい。保険料は高い。		

4. 一週間のスケジュールについて

(授業時間、課外活動、勉強時間等、毎日の生活について記入してください)

	月	火	水	木	金	土	日
7:00							
8:00			リーディング		リーディング	旅行等	
9:00		リスニング	リーディング	コミュニケーション	リーディング		
10:00		リスニング	文法	コミュニケーション			
11:00		リスニング	文法	文法			
12:00	リスニング	リーディング	文法	文法			
13:00	リスニング	リーディング		文法			
14:00	タンデム		タンデム				
15:00	タンデム		タンデム				
16:00	宿題	宿題	友人とカフェもしくは図書館等	宿題	宿題		
17:00		宿題		宿題	宿題		
18:00	帰宅		帰宅				
19:00				帰宅	帰宅		
20:00	毎日勉強あきるまで	スタムティッシュ					
21:00							
22:00							
23:00							
24:00	就寝(勉強や宿題が終われば)	帰宅、就寝	就寝	就寝	就寝		

5. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

ドイツ語は大学の第二外国語として勉強していたものの、留学前は全く話すことができませんでした。最初のテスト結果もひどく、前学期の基礎クラスはB1レベルでした。授業で基礎を固め、みんなが十分なドイツ語を話せない中、互いに頑張りあってクラスメイト歩みあい、テストに向けて友人と毎日カフェや図書館で勉強していました。その結果もあり、後学期では上のクラスC1を目指す程度のもので入ることができましたが、クラスメイトがより上手にドイツ語を話す、もしくは話せて当たり前の環境は前学期より厳しいものでした。授業では、なんと発言すればよいかわからない環境で発言を求められ、休み時間のなまりを含んだクラスメイトの会話には5割程度しかついていけず、ドイツ語に対する劣等感やコミュニケーションの難しさはドイツ人と対談で話す時よりも、クラスの中で実感しました。母国語以外の人にドイツ語でのコミュニケーションは想像以上に難しかったです。しかしできないのではなくやるしかない、頑張っって説明をどんどん追加してわかってもらうまで話すしかない、それでも半分ぐらいは誤解が生じる。そんなこともありました。学期の終わりには仲の良いクラスメイトができ、ドイツ語の試験にも合格しましたが、まだまだ自身のドイツ語には満足がいきません。口惜しさが私の原動力でしたが、今もその口惜しさをばねに勉強を続けていきたいと思っています。

同じ大学へ留学を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する事、生活全般に関する事など自由に記載してください）

上記でシビアなことを書きましたが、ヨーロッパの中心ドイツに留学することは想像以上に楽しかったです。最初の数か月の手続き、またラストの手続きの面倒を除いてひたすらに自分のやりたいことをやっていました。なんととっても海外旅行の手軽さには驚きです。格安バス、格安エアライン、ホステルの利用で、日本からだと考えられないほど、いろいろなヨーロッパ内外の国々へ旅行ができます。ホステルでの外国人との交流はクラスと同じ程度刺激的で魅力的でした。留学の中で一番大事なことは、お金や時間を費やしている限り楽しむことだと思います。趣味の旅行も、勉強も背伸びして取り組めたかと思えます。それでも足りないと感じるのが一年間の交換留学と思いました。私個人の意見ですが、やりたいことを思う存分爆発させる一年としてみるのが良いと思いました。

留学を通しての感想

もの足りないというのが感想です。語学コースと毎日の勉強によってB1レベルからC1までドイツ語を向上することはできました。しかし1年ではもの足りないと感じます。何度も、あと1セメスター分延長ができればと考える毎日でした。DSH2は獲得できましたが、ザール大学は延長を許可しています。ただ交換留学であること、ビザ、経済的な環境のため1年しか滞在できませんでした。

もちろんJASSOからもらえる奨学金も非常に助かりましたが、しかし8万円では当然ドイツでは生活していくためには足りませんでした。月額的生活費とみなされている735ユーロが12か月分口座に入っていることを証明しなければ、私はビザを取得することができなかったので経済的な問題もストレスとなりました。奨学金の値は是非ともみなおしてもいただきたいと思えます。

当たり前ですが、足りないということは満足いく1年ではなかったというわけではなく、楽しすぎて充実しすぎたために沸き起こった気持ちです。自分の一年を通しての経験は、資格の証明書と数多くの写真でしか証明できませんが言葉では語りきれないと思います。私にチャンスを許してくださった、両親大学各位には感謝の気持ちでいっぱいです。

1. 出発前の準備について

ビザの種類	<input type="checkbox"/> 有 種類() <input checked="" type="checkbox"/> 無 学生ビザ	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 場所() <input checked="" type="checkbox"/> 現地 外国人局																								
必要書類、手続き 手続きに要した期間	ビザ申請書類が必要だが、大学側が準備してくれ記入も説明を受けながら、同時に行った。手続き自体は、外国人局に行き、書類と現金を払うだけである。ビザ申請の予約もまた、大学が行ってくれて、申請後約1か月後に交付される。																										
ビザ申請以外で 必要な事前手続き	大学の寮を決めなければならないが、日本の大学から資料が渡され、事務側が現地の担当者と連絡してくれる。																										
留学に向けて 取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他()語																										
勉強方法	1,2年での第二言語の授業で使った教科書を基に、もう一度基礎から勉強し、後は語彙力を広げるため単語帳を使用した。																										
留学先の手続き (必要書類、大変だったこと、どのように取り組んだか等)	書類がたくさんあり、分からないことだらけであったものの、一つ一つ確実に取り組んで解消していくといい。口座書類や銀行書類は、早めに手に入れたい。																										
事前の必要経費 (留学前に必要な 支払い費用) ※概算費用	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 授業料</td> <td>円</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 寮費</td> <td>80000 円</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 語学研修費</td> <td>円</td> <td><input type="checkbox"/> 教材費</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> ビザ申請</td> <td>円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>渡航費 (<input checked="" type="checkbox"/> 片道 <input type="checkbox"/> 往復)</td> <td></td> <td></td> <td>70000 円</td> </tr> <tr> <td>海外旅行保険料</td> <td></td> <td></td> <td>円</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> その他 ()</td> <td></td> <td></td> <td>円</td> </tr> </table>			<input type="checkbox"/> 授業料	円	<input checked="" type="checkbox"/> 寮費	80000 円	<input type="checkbox"/> 語学研修費	円	<input type="checkbox"/> 教材費	円	<input type="checkbox"/> ビザ申請	円			渡航費 (<input checked="" type="checkbox"/> 片道 <input type="checkbox"/> 往復)			70000 円	海外旅行保険料			円	<input type="checkbox"/> その他 ()			円
<input type="checkbox"/> 授業料	円	<input checked="" type="checkbox"/> 寮費	80000 円																								
<input type="checkbox"/> 語学研修費	円	<input type="checkbox"/> 教材費	円																								
<input type="checkbox"/> ビザ申請	円																										
渡航費 (<input checked="" type="checkbox"/> 片道 <input type="checkbox"/> 往復)			70000 円																								
海外旅行保険料			円																								
<input type="checkbox"/> その他 ()			円																								

2. 渡航～到着時の生活について

利用航空会社	タイ国際空港	手配	エアトリ ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡—バンコク—フランクフルト	到着時刻	午前6時 【※移動時間（約 26時間）】
大学（寮）への移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関（ <input type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> 電車） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
空港から移動する際の注意点 行き方、料金等	フランクフルト空港駅から、Deutsch Bahn でザールブリュッケン中央駅へ。約2時間。		
住居のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート その他（ ）	住居手配	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他（ ）
部屋の種類	<input type="checkbox"/> 一人部屋 <input checked="" type="checkbox"/> 二人部屋 その他（ ）	ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input checked="" type="checkbox"/> 他国からの学生 その他（ ）
住居の申込手順	現地の大学から、寮に関する書類が送られ、その中から3つ候補を選ぶ。		
住居でのトラブル および解決方法	ハウスマイスター、大学のサポートセンターに相談		
大学への交通手段 (※費用がかかれば費用も)	バスを利用。大学の授業料の中に半年間のバスの Semester チケットも含まれるため、学生証の提示のみで乗車可能。		
生活費および内訳 (概算を円換算)	生活費計 47000 円/月 （生活費内訳） 住居費：30000 円/光熱費：7000 円/通学費：0 円 食費：10000 円/通信費：0 円/書籍代：5000 円 その他：（ ） 円 ※学費・寮費以外に留学先大学へ納入するもの： 0 円 （徴収された費用の名目： ）		
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	銀行口座開設には、パスポートと学生証が必要になる。 保険は大学内に3つ事務所があり、お好みで選べる。必要な書類は、パスポートや学籍証明書であり、申請後カードが郵送される。 携帯電話は、毎月チャージするSIMカードを初めに購入した。購入の際は、パスポートと現住所が必要となる。毎月15ユーロ程度。 街にはお店がたくさんあり、特に primark, EuropaGallery など生活雑貨を揃えることができる。 現金をあまり使いたくなかったため、スーパーマーケットなどでの支払いは全てクレジットカードで行っていた。大体 Visa, Master は利用できる。		

4. 一週間のスケジュールについて

(授業時間、課外活動、勉強時間等、毎日の生活について記入してください)

	月	火	水	木	金	土	日
7:00							
8:00	コミュニケーション				長文読解		
9:00	コミュニケーション	文法	文法		長文読解		
10:00	長文読解	文法	文法		長文読解		勉強
11:00	長文読解	文法	文法	勉強	長文読解		勉強
12:00	長文読解	文法	リスニング	勉強	リスニング		勉強
13:00			リスニング		リスニング	タンデム	
14:00			リスニング			タンデム	
15:00					タンデム	タンデム	
16:00	日本語クラスの手伝い	勉強			タンデム	タンデム	
17:00	日本語クラスの手伝い	勉強					
18:00	日本語クラスの手伝い	勉強					
19:00							
20:00		スタムティッシュ					
21:00	勉強	スタムティッシュ	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強
22:00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強
23:00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強
24:00							

5. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

留学によって伸びたものは、もちろん語学力である。留学前は、第二言語で勉強していたとはいえ、文法しか分からず話すなんて以ての外であった。そんな状態で渡航したので、最初は全く理解できず、授業はもちろん買い物でさえも不自由であった。しかし、ドイツ語が話せなくても、クラスメイトは話しかけてきてくれて、日本について質問されることも多々あった。たとえ上手く話すことが出来なくても、話そうとする意欲を見せれば皆最後まで聞いてくれたので、それはモチベーションにもつながった。クラスには、様々な国の人がいて、その国の文化や習慣を聞くのはとても興味深かった。特に、シリア系が半数であり、その人々の話はニュースで聞くよりも、より生々しく、しかし彼らは一生懸命にドイツ語を学んでいた。自分と彼らとは、ドイツ語を学ぶ目的の重さが計り知れないほどあり、改めて自分が狭い世界で生きていたか思い知らされた。コミュニケーション面では、元々あまり人見知りはなく、誰とでも話せる性格のおかげで、優しい友人に囲まれて過ごすことのできたものの、日本よりもさらに積極性が求められる場が多く、意欲的に動く大切さを知ることができた。

同じ大学へ留学を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

ドイツ語講座を受けて満足することなく、自主的にも勉強しないと授業についていくことは難しい。日本人は、全体的に文法や長文読解は理解できるが、リスニングやコミュニケーションを苦手とするので、そちらに重点を置いて勉強したら一気に理解力が深まると思う。特に、コミュニケーションの授業では、グループディスカッションやプレゼンテーションの機会が多く、発言しないと授業を受けている意味がないので、どんどん発表すべきである。最初は緊張するかもしれないが、そのうちに慣れるはず。また、ドイツ語を伸ばすには、タンデムパートナーを見つけるべきである。せっかく学んだドイツ語を使う機会がないと、身につかないため、自分と同じレベルの言語力の人と行くと、お互いに切磋琢磨できる。自分は日本語を教えて、相手はドイツ語を教えてくれ、授業では習うことのできない若者言葉や短縮した言葉も知ることができ、非常に面白い。1年しか留学できないので、気になるレクリエーションなどがあったら、積極的に参加すべきである。

留学を通しての感想

留学前は、特に不安もなく楽しみしかなかったが、いざ着いて暮らしてみると、言葉の壁は生きていくうえで非常に分厚いものであった。最初の2週間は、ホームシックになったりもしたが、帰国して思い出してみると、とても良い留学になったと思う。ドイツ人の友達だけでなく、ザールブリュッケンで出会った日本人の友達は、同じ境遇を過ごしたかけがえのない人々である。この留学を通して、人間関係の大切さを知り、また同時に国は関係ないのだと分かった。ドイツ語を話すことができるようになったことも、この1年間で成長した点であるが、1番は精神面である。日本にいた頃は、積極性はあったものの、それは自分が興味のある分野に限り、友人関係などは狭く、継続する力もあまりなかった。しかし、留学して、深く話してみないと分からないこともあるし、狭い世界で生きていても、井の中の蛙であり、成長につながらないことを悟り、広く深くを意識して行動するようになった。また、語学を伸ばすためには継続力が、最も大切であり、何日か机に向かわないとすぐに忘れてしまうので、勉強時間は短くても机に向かう習慣を行った。そのおかげか、半年後にはその習慣が身に着き、今でも毎日実施できている。この留学は、自分に足りないものを知るきっかけになった。自分の負の面を見て見ぬふりするのではなく、認めたくえでそれらを補う努力が出来るようになったのは、これから社会に出て生きていくのに、非常に大きな手助けとなるに違いない。